

オアシス21/喬成会在宅事業部

症 例 概 要 喬成会在宅事業部 T・S様 女性 100歳台 要介護3

平成10年より20年にわたり喬成会在宅事業部・オアシス21を利用していただき、最後は「絶対に病院に搬送しないでオアシスで死なせてください」と仰られ、お看取りをさせていただいた症例。

喬成会で利用していただいたサービス（利用順ごと）

①石狩市南地域包括支援センター、②ふれあいクリニック訪問診療、③ふれあいクリニック通所リハビリテーション、④オアシス21短期入居、⑤オアシス通所リハ、⑥オアシス21長期入所、⑦石狩ふれあいほっと館通所介護、⑧訪問介護、⑨ホットライン居宅介護支援事業所、⑩サービス付き高齢者向け住宅花びりか

内 容

平成10年、T様は当時のふれあいクリニック訪問診療と、ふれあいクリニック通所リハビリを利用されていました。とても厳しいお人柄で、スタッフは接遇面での注意をされたことも多くありました。持病の糖尿病はありながらも、喬成会のサービスを気に入っていただき、積極的にリハビリと訪問診療で在宅生活を続けていましたが、年齢とともに次第にADLは低下し在宅生活が困難になり、オアシス21の短期入所と通所リハの利用を提案。T様は、「（現在のオアシス看護師長の）三上さんが言うのであれば」と、平成16年8月にオアシス21の短期入所とオアシス通所リハの利用を決意されました。入退院を繰り返すなか、次第に在宅生活が困難になり、平成24年10月からオアシス21へ長期の入所に切り替わりました。在宅復帰支援に力を入れているオアシスでは、サ付住花びりかもオープンしたこともあり喬成会在宅サービスを利用し、生活の質をあげられるような在宅復帰プランを提示。T様本人も納得され、花びりかへの短期入居を決意（平成28年3月と平成29年3月の2回（合計8ヶ月）利用）。花びりかではホットライン居宅と通所介護・訪問介護を利用しながら自分自身だけの部屋で自立した生活を楽しまれていました。その後、5ヶ月の在宅生活を終え、再びオアシスに入所。しかし、その半年後に様態は悪化。ターミナルケアへと切り替わりました。T様はその頃からご家族に向けて遺言状を書き、ご家族へお渡ししていました。オアシスへの希望もあり『どんなことがあっても病院へは送らず、オアシスで死なせて欲しい。延命はしないで欲しい』との内容。ターミナルケアに入った2月には、酸素（2ℓ）必要で常に苦しんでいる状態。その中でも、「絶対に病院には送らないで欲しい。最後はこの服を着てオアシスで死にたい」と最後の服を枕元に用意していました。オアシスでは当然、その希望を受け入れ、看護師は少しでも楽になるようにと看護に携わっていましたが、2月上旬、ご逝去されました。T様にご家族に送った内容の中には、「私（T様）が死んだあとは、本当にお世話になった人にお礼を言ってください」との文章があり、そのリストの中にはオアシスの職員の名前がしっかりと入っていました。

入退院も繰り返しておりましたが、その時のT様の心身の状況に応じて、20年にわたり喬成会在宅事業部の10事業所を利用していただきました。これは、オアシス、在宅事業部がしっかりと連携してT様の生活にかかわれたからだと思い、キラキラ介護賞に推薦いたします。